



学校だより

1月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番
TEL (811) 6710

体験するから分かること 見えてくるもの

特別支援コーディネーター 雨宮 孝子

あけましておめでとうございます。令和となって初めての正月を迎えました。

最近、新年の挨拶をメールで済ませる方も増えてきているようで、年賀状のやりとりも以前より少なくなったという話も聞こえてきます。そんな折、本校では12月に5・6組が校内でレインボー郵便局を開き、オリジナルの葉書による手紙のやり取りが実現しました。この取組は、12月の人権週間にちなんでいろいろな人とあたたかいやり取りを進めるために行いましたが、活動の発端は暑中見舞いの葉書を書く学習でした。自分が書いた葉書はいったいどうやって相手に届いているのだろうか？という疑問から、郵便局の見学をしたり、郵便物の回収場面を見に行ったりして、郵便が届くしくみについて学びました。そして、次第に自分たちも友達に手紙を出したい、届けたいという思いが生まれてきたことが校内郵便局の開局に結びつきました。

開局に向けての準備を進める中で、5・6組では「誰にでも書き方が分かる葉書にするにはどうすればよいのか」、「どの学年の子にもわかる説明をするにはどんな言葉を使えばよいのか」など、相手意識をもつことの大切さを学びました。また、配達する時の教室への入り方、声の大きさなども大事であることに気付き、練習も重ねました。

実際に配達が始めると、「お手紙ありがとうございます。」「葉書をもっとください。」などと声をかけてもらうようになり、子どもたちは自分たちの活動を楽しみにしてくれる人がいることを実感し、仕事をする喜びを感じて、さらにやる気を増していました。「郵便屋さん、届けるクラスが間違ってますよ。」と誤配達を直接指摘された時には、「申し訳ありませんでした。」と答え、「次は間違えないようにしなくては。」と気持ちを新たにして活動をしていました。これらのことは、実際に体験して相手の顔を見て、やりとりをしなくては気づけなかったことばかりですが、とても大切なことです。

文字や写真、動画で簡単に情報を得ることができる今の時代だからこそ、自分の目で見て聞いて体験して学ぶことの大切さを子どもたちには伝えていきたいものです。新年も、5・6組の郵便活動は続きます。子どもたちがこれからの社会で生きていくためには、いろいろな立場について考え、思いやりをもって接する姿勢が求められます。今年も、体験を通して人と触れ合い、あたたかい関係を育むことができる学校を創っていきたいと思っております。本年もどうぞよろしく願いいたします。

